

## システム情報工学研究科特定課題研究報告書概要

年 度	平成 26 年度	学位名		修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	李 楊楊
指導教員氏名 大久保 正勝				
報告書題目  消費税の逆進性と駆け込み需要に関する研究 (消費税逆進性の再検証)				
報告書概要  <p>現在、日本政府の財政は非常に厳しい状況にある。政府債務は国際的にも歴史的にも極めて高い水準に達している。高齢化を背景とした医療、年金など社会保障費用の増加傾向は変わっていないため、借金はさらに膨らむ見通しとなっている。</p> <p>少子高齢化の進展とともに、消費税率の引き上げが社会保障財源を保証する一番重要な手段である。消費税の増税は社会の格差に対する影響の中で、税負担の逆進性の問題はこれまで多くの研究者によって議論されてきた重要な課題である。</p> <p>こうした背景を踏まえて、本章では同一世代内に異なる所得水準の家計を想定した上で、一時点と生涯税負担を計測し、逆進性が観察されるかどうかを再検証する。第 2.2 節では『全国消費実態調査』と『家計調査年報』のデータに基づいて一時点の所得で見た逆進性の再検証を行う。第 2.3 節は生涯所得で見た逆進性の先行研究の方法と観点を紹介する。第 2.4 節は『賃金構造基本統計調査』と『全国消費実態調査』のデータに基づいて生涯所得で見た逆進性について再検証する。第 2.5 節では、検証結果に基づき、逆進性の緩和と格差の是正の必要性について検討する。</p> <p>これにより、今後の消費税率引上げの際に、低所得者への配慮をすべきかについて示唆を与えることを目的とする。主に『家計調査年報』や『全国消費実態調査』などに掲載された最新データを利用して検証した結果、一時点の所得で見た場合、明らかな逆進性が観察されたが、生涯所得で見た場合、明らかな逆進性は見られなかった。</p>				
審査日	平成 27 年 1 月 26 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 准教授	博士(理学)	原田 信行	
副査	筑波大学 准教授	博士(経済学)	桃田 朗	
副査	筑波大学 准教授	博士(経済学)	大久保 正勝	